◎東京湾奥羽田大師橋際発↓富岡沖

ライトでも釣果はズッシリ おいしい金アジ釣れてます

フィッシングライター／竹川啓二 Keiji Takekawa

日本人の好きな魚で常に上位にランクインする大衆魚のマアジ。釣りをしない人だって、たたき、フライ、干物など一度は口にしたことがあるポピュラーな魚だが、最近ではブランド化され高級魚として扱われることも多い。

今さら説明する必要もないが東京湾で「金アジ」と呼ばれるマアジは最高ランク。金色に輝く魚体は脂の乗った証拠で、おいしさに疑う余地なしである。

加えてライトタックルでの釣りは引きの強さにも定評があり、釣って面白く食べておいしいということで老若男女から人気を集めている。

そろそろ秋の荒食いが始まるのではと9月下旬に出かけたのは東京湾奥羽田大師橋際の「かめだや」である。江戸前の老舗で、周年ライトアジで出船し、シロギスなどとともに常連さんやリピーターの多い人気船宿だ。

アクセスもよく、JR蒲田駅の東口まで送迎してくれるので電車釣行派にも重宝がられている。

私も送迎バスを利用して宿に7時ちょい過ぎに到着。すでにお客さんは全員集まっているとのことで、あいさつもそこそこに乗船場へ。以前シロギスの取材でお世話になった鈴木祥太船長が当日のライトアジを担当。あいさつをしてそそくさと船に乗り込み船内を見回すと、すでに皆さん準備万端の様子。すぐ定刻の7時半になり私を含め8名で河岸払いとなった。

▲抜群の安定度で釣り人の期待に応えてくれる東京湾のライトアジ

小移動が奏功

多摩川をゆっくり下り、海に出てから船は富岡方面へと進路を取る。最近好調な釣り場で、牛肉でいう「A5ランク」のように脂が乗ったアジが釣れるポイントである。

海に出てから30分チョイの船旅で到着。最初に狙ったのは岸壁の側。すぐ反応が見つかり釣り開始となった。

「水深は20メートル。底から2メートルを狙って」と船長からアナウンス。

すぐに左ミヨシのベテランにアタリ。しかしこれはゲストのカサゴ。3～4投目に船内最初のアジが取り込まれたが、後はカサゴのオンパレードになる。

これには船長もアジに食い気がないとみて早々に移動。さほど離れてはいないが、今度は沖目の平場で再スタート。こちらは水深16メートルと先ほどより浅い。

タナは同じく底上2メートル。ところがここでもゲストのイシモチが先にハリ掛かりしてきてアジ釣りの邪魔をする。ただサイズが大きくてイシモチ好きには評判がいい。

しかし船長的には気に入らないようで、また移動となった。と言ってもほんの少し動いた程度である。

水深も先ほどと同じだが、こちらのほうがアジの食い気があったようで移動後の1投目から顔を出し、その後もポツポツと船中でだれかが釣り上げている。ベテランの方も、

知っ得！ Tips and Tricks ライトアジのコツ

「アジはタナ取りが大事です。指示ダナが底から2メートルのときは、底から2～3回に分けてコマセをまいてタナに合わせて待つ釣り方と、タナに合わせてからコマセをまいて聞き上げる方法を状況に応じて使い分けています。初心者の方なら、まず道糸に1メートルごとに付いている印を頼りに正確にタナに合わせることを心がけてください。コマセをまいて、竿先をフワフワさせていればガツーンときますよ」とはベテランさんのアドバイスだ。

▲食いが立つとタナに合わせた途端にアタリがくる

●たけかわ　けいじ／雨男の私がレインウエアを忘れ突然の雨に狼狽。
予報は晴れでも天候急変に備えてバッグに入れておきましょう！

「タナが合えば食ってくるし、誘いをかければアタリは頻繁に出るよ」と話しながら竿を曲げた。

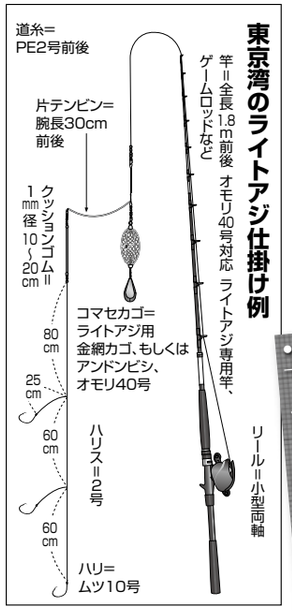
釣れるアジは25センチ前後の中型主体でサイズ的にはベリーグッド！　金色に輝き、おいしさをアピールしている。

状況は悪くないとみた船長はここでアンカーを投入、じっくり狙う作戦に出る。

するとこれが的中。コンスタントにアジが上がり、40センチ級の良型の群れとも遭遇して船内バタバタと大にぎわいだ。

ベテランは手返しが早く数をのばしている。バリバリ釣れているわけではないが時折ダブルもあり決して悪い状況ではない。

船長的にはどこかで入れ食いが起きることを期待しているようだが、写真を撮る私的にはちょうどいい釣れ方である。入れ食いになると写真を撮らせてもらう状況じゃなくなっちゃうからね。



東京湾のライトアジ仕掛け例

入れ食いを求めて

初心者が2名いたが、最初はおぼつかなかった動作も次第に慣れてきてそれなりに釣り上げている。初心者も船長のちょっとしたレクチャーで釣れるようになる、これが手軽に楽しめるライトアジの魅力であろう。

当日は曇天で風が少し吹いていたが、むしろアジ日和といった感じ。風波で海面がポチャポチャしてシェード（影）になり、アジの警戒心も薄れたのだろう。間を空けずに食ってくる状況は午後1時過ぎの潮止まりになっても続いていて、この時点でベテランは40尾以上をゲット。サイズがいいだけにクーラーはすでに重そうである。

今日はここで最後まで粘るぞ～！　と仲間の船の誘いかなと思ったら「移動しま～す」と船長。

これまたさほどの移動ではないが、アジの場合ほんの数メートル違っただけでまったく食いが違ってくるから小移動も侮れない。

ところが、これは裏目に出てスカを食らった。釣れていた船長、「ダマされた！」と笑っていた。

そこでもう一度動いたのだが、これが大当たり！

すでに2時近くになってポツポツと想定外の雨も降りだしたのだが、この雨がアジを呼んだのか、それとも上げ潮に乗ってやってきたのか、バリバリと食い気が立って入れ食いタイム突入である。

操舵室の船長も待望の食いに笑みがこぼれる。ベテランさんに「入れ食いですか？」と尋ねると「入れ食いで～す」と声も弾んでいる。

投入ごとにアタリがきてトリプルが2度、3度と続き、まさに入れ食いだ。

こうなるとコマセをまいてタナに合わせれば釣れちゃう状況で、ビギナーもベテランも釣れ方に相違はない。数をのばすには取り込みで手前マツリをしないことに尽きる。

結局この食いは止まることなく、沖揚がりの3時を迎えて後ろ髪を引かれながらの納竿となった。

トップは左ミヨシのベテランで19～42センチを82尾。20～25センチ級が主体だけに25リットルのクーラーはほぼ満タン。スソの初心者も28尾と大健闘。イシモチやカサゴ、サバなどゲストも交えお土産には十分な釣果である。

同宿はレンタルタックルの貸し出し無料で初心者も大歓迎。東京湾の金アジは秋の深まりとともにさらにおいしくなっていきますぞ！

•Tackle Guide

竿は専用竿のほか、オモリ40号に対応した7：3調子のゲームロッドなどが使いやすい。リールはPE2号前後を巻いた小型両軸でOK。付けエサはアカタンとアオイソメの両方が用意されている。

▼沖釣り初挑戦で40センチ級を手にしてえびす顔

▼入れ食いタイムは取り込みで仕掛けを絡ませないことが大事

◉船宿 information

東京湾奥羽田大師橋際
かめだや
☎03・3741・1258
（詳細は巻末の情報欄参照）

鈴木 祥太船長

▶料金＝ライトアジ乗合一人9700円
（コマセ、付けエサ、氷付き）。女性・子供割引あり
▶備考＝予約乗合、7時半出船。ほか別船でタチウオ、シロギスへも